

学校だより 1月号

令和4年1月11日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL

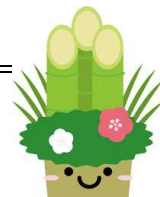
<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp



119日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



新たな1年の始まりにあたって
～「清らかな心」で3学期のスタートを～

校長 池澤 道弘

あけましておめでとうございます。2022年、令和4年の新しい年になりました。保護者や地域の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、良いお正月を迎えられたことと思います。このところ、感染症の状況は落ち着きが見られていますが、新たな変異株の拡大が危惧されるなど、まだまだ収束は見込めず、昨年同様いろいろな面で制約のある3学期になるかもしれませんが、保護者や地域の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動にご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。

さて、今日から3学期が始まりましたが、冬休み前の2学期終業式の式辞で、子どもたちに「家族の一員として、年末の仕事に積極的に参加してほしい」という内容の話をするとともに、「大晦日」「年越し蕎麦」「除夜の鐘」の成り立ちや意味等の紹介をしました。ご存知の方も多いと思いますし、やや時期外れかもしれませんが、1年の始まりにあたって、日本人が昔から大切にしてきた大晦日の「除夜の鐘」について触れてみたいと思います。

まず大晦日の意味合いですが、「大晦日」は旧暦の月の動きと大きく関係している「晦日」という考えがもとになっている言葉です。「晦」は月の満ち欠けが変化する様子を表わす言葉のひとつで、月が隠れることを意味しています。旧暦は月の満ち欠けで暦が決められていて、新月を1日とし、月が隠れる「晦」の頃がおおよそ30日であったことから、30日を「晦日」と呼んでいました。この考え方が新暦になっても残り、30日でなくても月の最終日を晦日と呼ぶようになったのだそうです。そんな晦日の中でも「大晦日」は、1年を締めくくる大事な日であると同時に、稲の豊作をもたらすとされている歳神様（としがみさま）を迎え入れる準備の日とされてきました。

その大晦日の伝統行事のひとつが「除夜の鐘」です。ご存知のとおり、除夜の鐘とは毎年大晦日の夜半から新年にかけて、各地のお寺で突く鐘のことです。人間がもっている108の煩惱を除くことを願って108回の突くと言われています。では、そもそも「煩惱」とは一体何なのでしょう。調べてみると「煩惱」とは「自分の内側にあり自分自身を苦しめる心」とであるとされていました。因みに108ある煩惱の中でも、底なしの欲である「食欲（とんよく）」怒りを指す「瞋恚（しんい）羨ましい気持ちや妬みの気持ちを表す「愚痴（ぐち）」の3つが、特に人を苦しめる煩惱であり、「三毒の煩惱」とも呼ばれているそうです。

また、「煩惱は何故108なのか」については、月の数（12）+二十四節気（24）+七十二候（72）=108となることから、「気候や季節の変わり目を表す暦に由来しているという説」など諸説があるそうですが、個人的には、以前友人である現職のお坊さんから聞いた、四苦（4×9）+八苦（8×9）=108という「四苦八苦という言葉に由来しているという説」が、とても分かりやすく好きです。

様々な考え方がある中、今は大晦日に除夜の鐘を聞くことも少なくなってきたかもしれません。しかし、いずれにしても希望に満ちた新しい年は、「煩惱」を消し去った清らかな心でスタートしていきたいと願うのは、誰もが同じなのではないでしょうか。学校でも子どもたちにとってよりよい年の始まりになるよう力を尽くしてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



お知らせ

○不要となった「うわばき」、お譲りください

本校では、うわばきを忘れた児童に学校のうわばきを貸し出していますが、現在、貸出用のうわばきの数が不足しております。

ご家庭に、サイズが小さくなるなどして不要となった「うわばき」がありましたら、学校にお譲りいただくと助かります。担任、または教頭までお声がけください。

